

## 資料⑤-1 アーティスト（伝統芸能）からの声

<現状>古典芸能者の仕事は、舞台出演と素人への稽古が中心。舞台は3月から影響が出始め、現時点では7月の舞台までキャンセルの連絡が来ている。また、素人弟子は高齢の方が多く、新型コロナウイルスへの不安は大きく、稽古も中断している。すなわちほぼ半年、無収入である。家賃や新聞代金も払えないという声も聞く。

<今後予見される創造環境>古典芸能は演者の息遣いを近くに感じる事が大切な芸能なのでオンラインでの配信や稽古は難しい。しかし、だからこそその可能性もある。すなわち身体性や息遣いに対する新しいアプローチが必要とされるのだろう。いま AI や ALIFE の研究者の方たちと、そこら辺について研究をはじめている。

目先の生活の補助だけではなく、これからの舞台や稽古のあり方を探るための援助も考えていただけると嬉しい。

安田登

安田登：能楽師（ワキ方・下掛宝生流）。全国各地の舞台出演や海外での公演も行う。シュメール神話『イナンナの冥界下り』でのヨーロッパ公演（アーツカウンシル東京の助成）や、金沢 21 世紀美術館『天守物語（泉鏡花）』の上演など、能・音楽・朗読を融合させた舞台を数多く創作、出演。また、理研の「AI と文化研究会」に所属。池上高志氏（東大）の ALIFE カンファレンスにも登壇。

NHK100 分 de 名著『平家物語』で講師と朗読を担当。著書多数。